

UWC ISAK JAPAN

一年間のご報告

ANNUAL REPORT
2025-2026



ご挨拶



代表理事　小林 りん

世界情勢は混迷を深め、アジア地域においても不確実性は日に日に高まっています。さらに、驚異的なスピードで進化する AI と、それに伴う労働市場の変化が重なり、数年先にどのような世界が広がっているのかを見通すことは、ますます難しくなっています。

こうした予測困難な時代において、教育機関はどのような人財を育てるべきなのか。知識の単純な習得の価値が相対的に低下する中で、学問とは何を意味するのか。私たち自身も、これらの問いに日々真摯に向き合い続けています。

本校は 2014 年の設立以来、大切にすべき四つの力として、次の資質を掲げてきました。
1）問いを立てる力
2）多様性を活かす力
3）困難に挑む力
4）仲間の挑戦を支える力

情報の収集や処理という点において、人間が AI に優位性を持ち続けることは、もはや容易ではありません。だからこそ、過去の延長線上にない「問い」を見出す視点、異なる価値観が交差する中で人や事象をつなぎ新たな意味を編み出す「編集力」、そして予測不可能な時代の只中で自ら道を切り拓く「意志ある楽観力」が、これまで以上に重要になっていると考えます。

これらの力を育むリーダーシップ教育は、いかにあるべきか。教職員と生徒がともに学び続け、毎年進化を重ねる学校でありたいと考えています。

この営みを支えてくださっている多くのご支援者の皆さま、日々さまざまな困難を乗り越えながら現場を支えてくださっている教職員、そして理事・評議員・監事の皆さまに、改めて心より御礼申し上げます。

今年、卒業生ファンド（Alumni Action Fund/AAF）とISAKインパクト・アワードが新たに始まりました。UWC ISAKのビジョン「One Life」は在学中にとどまらず、卒業後も問われ続ける生き方です。

起業もその一つの表現であり、AAFは共に未来を創るべく、卒業生の挑戦に長く寄り添い続けていきます。ISAK インパクト・アワードの映像を拝見し、どのプロジェクトにも社会に変化を生み出そうとする強い意志と行動があり、胸が熱くなりました。

世界の分断がますます進む中、UWC ISAKからこれほどの挑戦が生まれていることに、希望と誇りを抱くとともに、その広がりがさらに多くの挑戦と連鎖を生み出していくことを、心から楽しみにしています。



発起人代表 兼 副代表理事　谷家 衛



校長　アーデン・チョシン

世界が分断や不確かさに直面する中、UWC ISAK Japan は、異なる国や文化、視点を持つ若者がつながりを選ぶことで生まれる可能性を示し続けています。生徒たちは複雑な課題から目をそらさず、思いやりと好奇心、勇気をもって向き合っています。

今年は、「One Life. Realize Your Potential. Be a Catalyst for Positive Change.」というビジョンへの取り組みをさらに深めました。多様性を強みとして活かし、「平和はつながりから始まる」という考えのもと、対立に建設的に向き合い、違いを越えて関係を築く力を育てています。同時に、ウェルネスや自己理解、他者への思いやりを大切にし、内面から始まるリーダーシップも重視しています。

また、「卒業後の進路を切り拓く」という戦略を進め、一人ひとりの目的や情熱に基づいた、柔軟で人に寄り添う教育のあり方を追求してきました。

教室や寮、プロジェクトの中で、生徒と教職員は「何があり得るか」を問い続けています。この実践が、より平和で持続可能な未来への希望につながっています。

ファウンダーをはじめとするご支援者の皆さま、教職員、生徒、保護者の皆さまに心より感謝します。UWC ISAK の歩みに関われることをありがたく思います。

数字で見る本校、ミッション・ビジョン

数字で見る本校

2025-2026年度

生徒数	199名
生徒の国籍数	84カ国
奨学金給付率	76.4%
教職員数	73名



ミッション・ビジョン

ビジョン

One Life.
Realize Your Potential.
Be a Catalyst for Positive Change.

本校のビジョンを具体的な行動と成果につなげるために、次のようなストラテジーを設定しました。多様な取り組みを進める中で、変化や課題をいち早く見つけ出し、行動を調整しながら前に進む設計になっています。

ストラテジー

Pioneering PATHWAYS to Graduation
PEACE Begins with Connection
The Arc of IMPACT
Making our SYSTEMS Talk

これらは、「教育を通じて、平和で持続可能な未来を実現するために、人・国・文化をつなぐ力とする」というUWCのミッションと密接に繋がっています。

UWC ミッション

UWC makes education a force to unite people,
nations and cultures for peace and a sustainable future.

一年間のふりかえり



2025.8　新学期の始まり

新学期が始まり、在校生がキャンパスに戻ってきました。そこに新入生を迎え、本校はさらに多様性に富んだ活気あるコミュニティとなりました。教室での学びに加え、野外教育や日本文化に触れる小旅行など、充実した学校生活が始まりました。全寮制の生活の中で育まれる友情や経験は、卒業後も心に残り続けるかけがえのない財産となります。



2025.9　サポーターステータスプログラムの始動

これまでお寄せいただいたご支援への感謝の気持ちを形にし、生徒とご支援者の皆さま、そしてご支援者さま同士のつながりを深めていただきたいとの思いから、「サポーターステータスプログラム」を始動いたしました。各ステータスには、信州の木々にちなんだ名前を用いております。サポーターステータスは、本校の生徒たちの可能性を信じて応援してくださる皆さまのお気持ちを表すものです。皆さまのご支援に心より感謝申し上げます。



2025.10　「ISAK Insider」が100号を達成

生徒主導の校内新聞である「ISAK Insider」は記念すべき100号を迎えました。毎週発行される「ISAK Insider」は、キャンパスライフに欠かせない存在として、本校キャンパスで生まれる様々なアイデア、イベント、生徒たちの声を届け続けています。



2025.11　ISAK 国際文化祭

11月22日、「ISAK国際文化祭」を開催し、200名を超える地域の皆さまをキャンパスにお迎えしました。本イベントは、日頃より本校生徒を温かく受け入れてくださっている地域の皆さまへの感謝の気持ちを込めたものです。生徒主導のワークショップや、さまざまな国や地域の文化を紹介するパフォーマンスを通して、本校の多様性を感じていただきました。生徒、教職員にとっても、軽井沢を『ふるさと』として感じる思いを深めるとともに、地域とのつながりを改めて実感する機会となりました。



2025.12　2025年ウィンタースクール

12歳から13歳の子どもたちが2025年度ウィンタースクールに参加し、5日間を仲間とともに過ごしました。参加者たちは、本校での生活を初めて体験し、本校の教育の柱であるデザイン思考やリーダーシップについて学びました。また、森の中でのハイキングやアイススケートなどの活動も楽しみながら、仲間との絆を育みました。



2026.1　ゲストスピーカーセッション

是枝裕和監督がキャンパスを訪れ、全校生徒に向けて講演を行いました。この講演は、高校3年生の生徒が監督の事務所へメッセージを送ったことから実現したものです。講演では、多様な背景を持つ生徒たちが、共感や表現の力、社会課題について対話を深めました。生徒の勇気ある行動は、本校全体に新たな挑戦へ踏み出すきっかけをもたらしました。生徒たちの質問に丁寧に向き合ってくださった是枝裕和監督に、心より感謝申し上げます。



2026.2　野外教育　スキー

本校ではキャンパス外で実施する野外教育にも力を入れており、その一環として、冬季はスノースポーツに取り組みます。生徒たちは自然の中で活動しながら、責任感や困難を乗り越える力、仲間や自然を尊重する姿勢を培っていきます。また、チームワークや自己管理、実践的なライフスキルを学び、自分自身と向き合う力も深めていきます。



2026.3　春のプロジェクト・ウィーク

プロジェクト・ウィークは、生徒たちが自らの興味関心と社会課題を結びつけ、実践的なプロジェクトに取り組む、本校のカリキュラムにおける重要なリーダーシッププログラムです。一期生から受け継いでいる「プロジェクト・ネパール」は今年も現地在住の卒業生と共に継続的な活動を実施しました。生徒たちは、自らの企画の実践を通して、困難に挑み、仲間との意見の違いを乗り越えながら互いに支え合う大切さや学んでおります。



2026.4　GoMAD 受賞

UWCが世界各地の生徒による社会課題解決プロジェクトを支援する「GoMAD」賞を、高校3年生と2年生の生徒が受賞し、それぞれの母国（ウガンダ、エチオピア）で、環境問題や紛争による教育格差に向き合うプロジェクトを始動しました。地域の課題に対し、自ら行動を起こす姿勢は、本校での学びを体現しています。



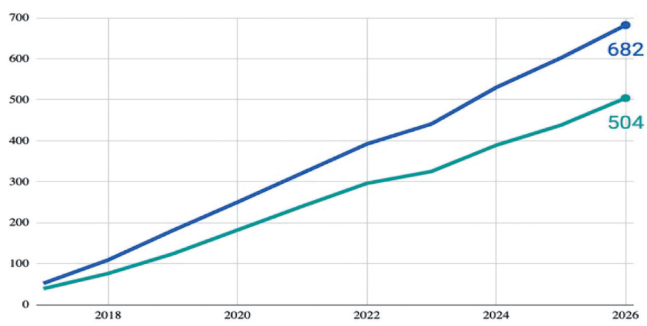
2026.5　卒業式

第10期生となる2026年度の卒業生80名が、多くのご支援者の皆さま、保護者、教職員に見守られながら、それぞれの想いを胸に、新たな一歩を踏み出しました。卒業式の週末には、本校の在校生、卒業生、教職員による社会への取り組みを紹介しその貢献を称える新たな取り組みとして、「ISAKインパクト・アワード」もスタートしました。これまでの学びや活動を振り返り、新たな一歩へとつながる節目の式典となりました。

ご支援者の皆さまへのお礼及びご報告

いつも温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。
国籍だけでなく、社会経済的にも多様性あふれる本校のコミュニティは、全体の約7割の生徒に家庭の経済状況に合わせた返済不要の奨学金を給付することで実現しています。2025年度は、ふるさと納税によって全体の約6割の生徒の奨学金が支えられました。皆さまからのふるさと納税をはじめとする様々なご支援のおかげで、この教育環境を維持しながら、時代に即して教育プログラムを発展し続けることができます。改めて、心より感謝申し上げます。

卒業生、奨学生数の推移*



* 奨学生はふるさと納税やその他ご支援により全額または部分奨学金を受けた生徒となります。

2025年会計年度　教育活動収支報告書

項　目	金 額 (単位:百万円)
学生生徒等納付金	1,331.24
授業料、寮費、施設設備資金	1,291.96
入学金	24.60
入学検定料	3.84
IB Years費 *	10.84
寄付金	1,437.92
一般寄付金	59.09
特別寄付金	171.81
市町村補助金(個人版ふるさと納税)	398.53
企業版ふるさと納税	9.00
現物寄付	799.50
その他	136.01
地方公共団体補助金	72.70
ショートプログラム	52.37
雑収入	10.95
教育活動収入計	**2,905.17**
人件費支出	620.01
教員人件費支出	335.51
職員人件費・役員報酬支出	280.11
賞与引当金繰入額	4.39
教育研究経費支出	862.31
奨学費支出	618.77
その他支出	243.54
管理経費支出	226.68
奨学費支出	28.92
その他支出	197.76
減価償却	99.27
教育活動支出計	**1,808.27**
**教育活動収支 ** **	**1,096.90**
2025年寄付基金(Endowment Fund)へ充てた金額	116.16
寄付基金(Endowment Fund)へ寄贈された株式	799.50
実質的な活動収支	**181.24**

*「IB Year費」は、IB(国際バカロレア)カリキュラムにかかる費用として、授業料とは別に保護者にご負担いただくものです。
**今期は、Endowment Fundへの多大なる自社株式ご寄贈を賜りました。また、引き続き中長期にわたり安定した奨学金制度を保持する目的で、EFの寄付基金に毎年一定額割り当てるよう最大限努めております。









ご支援者の皆さまへのお礼

UWC ISAKの歩みは、ファウンダーならびにカタリスト・サポーターの皆さまからのあたたかなご支援に支えられてきました。心より御礼申し上げます。
また、ふるさと納税や企業版ふるさと納税、継続的なご支援、本校奨学金へのご支援、コーポレートサポーターとしてのご参画、プロボノでのご協力、物資のご提供など、さまざまな形でお力添えをいただいている個人・法人の皆さまにも、深く感謝申し上げます。皆さまからのご支援が、生徒一人ひとりの日々の学びと成長につながっています。

ファウンダー
(ご支援順)

谷家 衛*
小林 繁肇・りん
髙橋 百合子
山本 公哉
柳沢 正和
青井 理香
立石 文雄
林 秀彦・三千代
河野 宏子
居松 秀浩*ǂ
小澤(兼信)ふみ子 ǂ
ネルソン ブライアン
小柴 正浩*
小島 勝
吉野 永之助
加藤 元
井上 高志
田中 将太郎
村田 貴士 *ǂ
高野 真
夏野 剛
水谷 浩明
川田 尚吾
佐藤 輝英
松本 光平
出井 伸之
北城 恪太郎
井上 智治
伊藤 友則
山岸 広太郎
エアン ショー
宮澤 栄一
中島 周
小泉 泰郎

一般財団法人 小川奨学財団
衣畑 秀樹
三宅 伊智朗
本庄 竜介
鈴木 エドワード
菅原 勇一郎
辻本 春弘
堀江 伸 ǂ
髙山 健
佐浦 弘一
公益財団法人 石橋財団
佐護 勝紀 ǂ
岩倉 正和
神山 治貴*
小林 正忠
小林 一俊
マニヤン ジャック・麻里子
加治ファミリー
佐藤 茂*
武田薬品工業株式会社
長谷部 泰三
奥本 真一郎
福武 純子*
本多 均*
小泉 洋二朗・光美
安東 泰志*
有田 浩之
岩崎 俊男・美紀子
武田 洋子
山口 典子
安渕 聖司
木村 新司
蓑田 秀策*
氷室 利夫

一般社団法人 野中インスティテュート・オブ・ナレッジ
株式会社 ホッピーミーナ
岡田記念会
川鍋 一朗
諸藤 周平
三宅 卓*
ユナイテッド・マネージャーズ・ジャパン株式会社
永瀬 昭幸
髙井 洋子
末広 真樹子
藤武 慶三
吉澤 信司
内山 幸樹
分林 保弘
俞 梅
藤武 貴尚
古川 淳
島田 亨*
佐山 展生
柏木 斉
吉田 あや子、佐々木 寛・雅子
施 芝
マクナーニ ポール・真樹
川村 隆
米日財団
藤田 恭嗣
増田 宗昭*
畠山 康・麻紀子
池田 祐久
角川 歴彦
青山 健

＊名誉ファウンダー　ǂ ゴールドマン・サックス・ギブスを通じてのご支援

カタリスト・サポーター
(ご支援順)

真鍋 康正
永阪 崇行
馬塲 功淳
大下 悟
孫 小蕾
ゴー ユーリン
YKK Holding Asia Pte Ltd.
藤森 義明
浜本(森)淳子
中村 春雄
小杉 明
塩田 元規
小佐野 保
大平 亮
公益社団法人リソー教育岩佐財団
公益財団法人服部国際奨学財団
阿部 亮
菅原 貴弘
渡邊 洋行
志村 晶・三千代*
山本 真一
有馬 友樹・有馬 誠
橋本 幸一郎
株式会社みずほフィナンシャルグループ
林 竜也・真理子
株式会社バイキング
玉川 憲
ゴヴァース 健二・淳
梅田 優祐
杉江 陸
小方 功
金子 英樹
池尻 由貴
井内 英夫・美佐子・郁江*

田中 良和
越智 通勝
株式会社メディアドゥ
渡 伸一郎*
いちごアセットマネジメント株式会社
石井 壮太郎
芳川 可奈子・裕誠
上野山 勝也
西川友也・美弥子
加藤 晴子
里見 治紀
ロナ チャオ
磯貝美穂子・マーク チャン
The Chiu Family
河野 雅彦
大塚 紀男
岩上 好博
ヤン イーフア
熊切 雄三
神山 裕子
清水 万莉子
荒井 秀章・園子
上村 康浩
吉村 英毅*
嵜本 晋輔
荒井 邦彦

＊名誉カタリスト・サポーター

本校奨学金
井内奨学金
神山治貴奨学金
佐藤茂奨学金
末広真樹子奨学金
Tokarev Foundation奨学金
本庄奨学金
本庄照子奨学金
YKK Holding Asia奨学金

サマースクール奨学金
HSBCグループ奨学金
キャニオン・キャピタル・ジャパン奨学金
大八木崇史奨学金
福田仁司奨学金

ゲストスピーカーセッション
株式会社エイブル

大学進学奨学金
シェルビー・ディビス奨学金
日本財団奨学金

プロジェクトサポート
いちごアセットマネジメント株式会社
MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社
東京エレクトロン株式会社
株式会社ライジング・フィールド
株式会社ランドウェル

コーポレート・サポーター
株式会社 LIXIL グループ
セコム株式会社
株式会社エアウィーヴ　ホールディングス
モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所
伊藤 見富法律事務所
TMI 総合法律事務所
パナソニック株式会社
マッキンゼー・アンド・カンパニージャパン
ベイン・アンド・カンパニー

芳名帳のご案内
全ご支援者の方々の芳名帳は、ウェブサイトに掲載させていただいております。こちらからご覧ください。

(敬称略)

Pay It Forward Scholarship Fund 始動





本年度は、保護者の皆さまおよび卒業生を中心とした新たなファンドレイジングの取り組みとして、「Pay It Forward Scholarship Fund 2025」を立ち上げました。本基金は、ペイフォワードの精神のもと、毎年学年末の6月までにお寄せいただいたご支援を積み立て、翌年度に迎え入れる本校の生徒1名に対する高校3年間の奨学金に充てることを目的とした年次基金です。

初の試みではありますが、2025年10月には香港でのイベントを皮切りに、順調なスタートを切ることができました。2025年度の目標額2,200万円に対し、2026年4月時点で1,600万円を達成するなど、着実にご支援の輪が広がっています。

まずは一人の奨学生を支えるという目標の達成に向けて取り組み、その先には、この支援の輪をさらに広げ、より多くの生徒を継続的に支えていける仕組みへと発展させていきたいと考えています。

本取り組みにいち早くご賛同いただき、多大なるご支援を賜った保護者の皆さまならびに若い卒業生の皆さまに、心より感謝申し上げます。

高校拡張計画へのご支援のお礼とお願い







高校拡張計画イメージ図

本校にとって最後となる拡張計画が始動いたしました。2014年に全校生徒150名規模で開校した本校は、今後数年をかけて、約250名規模へと成長いたします。これにより、より多くの次世代に本校の教育を届けるとともに、学校としての持続可能性の向上にもつながることを期待しております。
本計画では、生徒寮と教員住宅を兼ね備えた第5寮、および新たなカフェテリアの建設を予定しているほか、これまでカフェテリアとして使用してきたアサマ棟がサイエンス棟へと生まれ変わる予定です。

2026年5月時点で、5.9億円にのぼるご寄付ならびに学校債を通じてお力添えをいただいているファウンダーおよびカタリスト・サポーターの皆さまに、心より御礼申し上げます。

一方で、昨今の建設費の高騰により、当初の想定を上回る費用が見込まれております。本計画の実現に向け、引き続き皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

在校生からのお礼

Marcia（アンゴラ/高校3年生）

UWC ISAKでの経験は、家族と離れて異なる文化の中で過ごすことで、自分を大きく変え、多様な価値観に向き合う力を育ててくれました。奨学金プログラムのおかげで、不安なくこの機会に挑戦でき、心から学びに向き合えています。もしUWC ISAKに来ていなかったら、私の世界はもっと小さかったと思います。自分の可能性を広げ、将来はアンゴラの教育の発展に貢献したいと考えています。

Douglas（アメリカ/高校1年生）

ここでの経験は、これまでにない特別で忘れられないものです。毎日、新しい人と出会い、対話を通して多くを学べることに大きな喜びを感じています。また、この環境だからこそできるアウトドア教育も、私にとって大切な学びの一つです。アメリカ出身の私にとって、この学校がなければ出会えなかった人や経験が数多くあります。こうした機会を支えてくださっていることに、心から感謝しています。

ご遺贈によるご支援のお礼

本年度は、匿名のご意向によるご遺贈寄付を賜りました。ご生前より本校の教育に深いご理解とご関心をお寄せいただき、このようなかたちで未来の生徒たちへ想いを託していただきましたこと、心より感謝申し上げます。いただいたご支援は、生徒一人ひとりの成長を支えるための奨学金として、大切に活用させていただきます。
近年では、このようにご自身の想いを次の世代へつなぐため、ご遺贈によるご支援に関心が高まっております。本校では、皆さまのお気持ちを大切に受け止め、今後の教育活動へと誠実につないでまいります。

在校生、卒業生の取り組み

ISAK インパクト・アワード

ISAK インパクト・アワードは、UWC ISAKの在校生、卒業生、教職員による社会への取り組みを紹介し、称えるアワードです。「自分や社会にとって大切なことを見極め、困難な状況においても行動を起こす」という、UWC ISAKの価値観を体現する実践に光を当てています。
初開催となった本年は、教育機会の拡大、環境課題へのアクション、地域コミュニティづくり、インクルーシブな社会の実現など、多様な取り組みが寄せられました。外部有識者による審査では、活動の目的や実行力、社会への広がりを評価しました。
また、動画がどれだけ多くの人に共有され、共感を広げたかという点も重要な選考基準の一つとなりました。UWC ISAKでは、一人の行動が周囲へ広がり、新たな行動を生み出していく「リップルエフェクト（波及効果）」を大切にしています。

在校生部門受賞者

Arunabh（バングラディシュ／高校3年生）



「Evening School」は、Arunabhとその仲間が主導する、教育を受けることを制限されている若者たちに学びの機会を届けるためのプロジェクトです。現在は、タリバン政権下で学校に通うことを禁じられているアフガニスタンの女子生徒たちに向けて、コンピューターサイエンスの授業を提供しました。
この活動は、Arunabhがアフガニスタン出身の友人から、教育を受けられない現状について話を聞いたことがきっかけでした。
「学びたいのに学べない生徒たちがいる。その現実を知って、行動しなければならないと思いました。」と当時を振り返ります。
今後は、IGCSEやA-Levelといった、世界で広く使われている高校課程のカリキュラムを導入し、生徒たちが大学進学につながる学びを続けられる環境づくりを目指しています。
この取り組みは国際的にも注目され、Arunabhは、2025年に国連本部で開催された「High Level Political Forum」でこれまでの取り組みを発表する機会にも恵まれました。

卒業生部門受賞者

Tsering（ネパール／2025年卒業）



ネパール出身のTseringは、ヒマラヤ地域の山奥を何度も訪れる中で、そこでは医療や教育へのアクセスが限られ、多くの女性、女児が、月経について学ぶ機会もなく、不衛生な布を使い続けている現状を目の当たりにしました。
「同じ年代の女の子が母親になる姿や、感染症を誰にも言えず耐えている姿を見ました。その時、『自分が動かなければ何も変わらない』と思いました。」
その思いから、Tseringは、本校在学中の高校1年次に、月経の健康教育を行う女性支援プロジェクト「Women Empowerment Project」を立ち上げました。遠隔地の村を訪れ、月経の仕組みや安全な衛生管理についてワークショップを実施し、看護師とも協力しながら、再利用できる布ナプキンや石けんを配布しました。
2023年以降、この活動は15以上の村に広がり、必要な月経用品は1,500人以上の女性や女児に届けられています。生理中でも学校に通えるようになった子や、自分の体について理解できたことで自信を持てるようになった人もいます。
「『初めて自分の体で何が起きているのか分かった』と言ってもらえた時、この活動には本当に意味があると感じました。」
と語るTseringが、卒業生部門の最初の受賞者となりました。



卒業生部門ノミネート　Lucy（カナダ／2020年卒業）

Lucyは、2020年にランニング中、道端で447個のプラスチックごみを拾ったことをきっかけに、環境問題への発信を始めました。その様子をフェイスブックに投稿したことで、「アートは人を動かす力を持ってる」と実感したといいます。
大学ではアニメーションを学び、卒業時には、約2,000個のプラスチックごみを回収し、どの企業の商品かを調査した上で、水路や環境に与える影響を伝える3分間のアニメーション作品を制作しました。ストップモーションの手法を通して、プラスチックごみが環境を汚染していく現実を伝えています。
「環境問題を『知る』だけでなく、誰がこの問題を生み出しているのかを考えてほしかった。」
と語るLucyの作品は、世界各地の映画祭に出品され、フランス、マルセイユで開催された科学と社会課題をテーマにした国際映画祭で観客賞を受賞、また、イタリア、ミラノを拠点とする短編映画祭では、超短編作品部門の最優秀賞を受賞しました。さらにベルギーでは、人間生態学の国際会議で発表を行い、出身地のカナダの小学校では、子どもたち向けのワークショップも実施しました。Lucyの活動は、アートを通して社会に問いを投げかけています。

卒業生の進学先



UWC ISAKの卒業生コミュニティは、131の国と地域から集まった680名以上のメンバーで構成されており、それぞれが世界中でポジティブな変化を生み出すことを目指しています。

卒業生たちは、イェール大学、プリンストン大学、コーネル大学、ブラウン大学などのアイビーリーグをはじめ、オックスフォード大学、シンガポール国立大学やロンドン芸術大学といった各分野のトップ大学、そして東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学、国際基督教大学（ICU）などの日本の有名大学へと進学しています。進路は多様で、ギャップイヤーの取得、ボランティア活動、起業に取り組む卒業生も多くいます。

主な進学先 2026.5月現在

北　米

Babson College
Bates College
Boston University
Brown University
Carnegie Mellon University
Case Western Reserve University
Colby College
Columbia University
Cornell University
Macalester College
McGill University
Middlebury College
Minerva Schools at KGI
Mount Holyoke College
New York University
Northeastern University
Northwestern University
Pomona College
Princeton University
Rhode Island School of Design
Sarah Lawrence College
Savannah College of Art and Design
Smith College
Swarthmore College
Tufts University
Trinity College
University of British Columbia
University of Chicago
University of California - Berkeley
University of California - Los Angeles
University of Florida
University of Pennsylvania
University of Southern California
University of Toronto
University of Washington
Vanderbilt University
Wellesley College
Whitman College
Williams College
Yale University

ヨーロッパ

Delft University of Technology
Erasmus University College
IE University
King's College London
Leiden University
Oxford University
Royal Northern College of Music
SOAS University of London
University College London
University of Amsterdam
University of Bath
University of Bristol
University of Edinburgh
University of Groningen
University of Manchester
University of Mannheim
University of St. Andrews
University of The Arts London

アジア・オセアニア

Australian National University
(オーストラリア)
Chulalongkorn University
(タイ)
Mahidol University
(タイ)
National University of Singapore
(シンガポール)
NYU Abu Dhabi
(アラブ首長国連邦)
RMIT University Viernam
(ベトナム)
University of Sydney
(オーストラリア)
Trinity College
(オーストラリア)
Yale NUS
(シンガポール)

日　本

立命館アジア太平洋大学（APU）
秋田国際教養大学
国際基督教大学（ICU）
慶應義塾大学
九州大学
大阪大学
立教大学
上智大学
芝浦工業大学
武蔵野芸術大学
立命館大学
東京大学
早稲田大学

UWC ISAK JAPAN



生徒たちが、多様な価値観を力に変えながら、自ら考え行動する力を育めるのは、皆さまの温かいご支援があってこそです。これからも、一人ひとりの可能性を広げる学びの機会を届けていけるよう、ふるさと納税をはじめとするご支援を賜れますと幸いです。

ご支援の方法はこちら

発行日：2026年6月12日